§4 区役所どうですか？

このコーナーでは、区役所の取組を掘り下げて紹介し、ご意見等を募集します。今回は、地域コミュニティに関する取組です。

淀川区まちづくりセンター
―地域コミュニティの再組織化と“豊かな協働“をめざして―

「淀川区まちづくりセンター」って？

平成 24 年 11 月から地活協の自律運営支援のための中間支援組織として大阪市から委託を受け、淀川区役所 4 階市民協働課内に事務所を設置し、「アドバイザー」 1 名、まちづくりに関する専門的な知識を持った「まちづくり支援員」 5 名の 6 名体制で、区役所の地域担当職員と協働して、区内 18 地域の地活協の自律運営支援を行ってきました。

現在の事業者は 3 月末で終了し、4 月からは新しい事業者となりますので、これまでまちづくりセンターが取組んできた事業や実際のマッチング事例などを振り返りながらを紹介します。（まちづくりセンターの業務は平成 26 年も継続して実施します）

淀 ま
Y M
yodogawaku machizukuri
淀川区まちづくりセンター

新たな地域コミュニティ支援事業の進め方

市政改革プラン

1-(1)豊かなコミュニティづくり
1-(2)地域活動の活性化
　ア地域団体の活動の活性化の支援
　イ地域活動の担い手の拡大への支援
1-(3)多様な協働(マルチパートナーシップ)の推進
　ア多様な主体のネットワーク拡充への支援
　イ地域公共人材の充実への支援
1-(4)市民による自律的な地域運営の実現
　ア地域活動協議会の形成に向けた支援
　イ活動内容を限定しない柔軟な財政的支援
1-(5)地域資源が循環する仕組みづくり
　ア多様な分野におけるＣＢ化、ＳＢ化の支援
　イ大阪市の事務事業の社会的ビジネス化

①多様な協働先の発掘
②強み・専門性・ニーズの整理
③緩やかな繋がりづくり
④地域課題の把握
⑤地域公共人材の発掘
⑥CB/SB の種さがし

まちづくりセンターの取組

①多様な主体へのインタビュー

②講座・交流会の開催
・まちづくりフォーラム
・ＮＰＯ交流会
・企業・ＮＰＯ“異次元”交流ライブ
・facebook 広報講座
・労務講座
・会計講座
・助成金獲得講座
・コミュニティビジネス学習会
・チラシ広報紙作成講座

③地域課題の把握
・地活協合同研修会と WS

④地域公共人材の発掘・育成
・地活協実務者研修会(4 回連続)

ACTION　[主な取組内容]

①多様な主体へのインタビュー

区内の企業・ＮＰＯ法人・専門学校・商店街などを中心に、延べ 239 回 150 団体に対して、インタビューという名の団体アセスメントを実施。

成果　70 団体の“強み分析”完了！

②地域課題の把握と講座・交流会の開催

地域運営支援シリーズとして各種の講座を開催
地域単位のワークショップや地活協合同研修会を実施
企業・NPO 異次元交流ライブ（3 回実施）

成果　地活協運営のキーパーソン把握!

③地活協合同研修会と各地域でのワークショップ

18 地域中 15 地域が参加。
地域の有るべき姿と課題を導き出し、今後の対応を検討するワークショップを実施。

成果　各地域の強みと課題が明確に！

④地活協実務者研修会　未来まちづくり塾

実務者同士のネットワークづくりのため、2 ヶ月で 4 回の連続講座を開催。
今後も「情報交換による課題解決の場」としてに開催していく。

成果　地域を超えたネットワーク構築!

”豊かな協働”の芽生え

淀川区では２４の協働が実現！！

事例①地域の防災訓練に企業の力

新東三国地域は昔ハス畑が広がっていた地域で液状化災害が懸念されている。
一方、応用地質株式会社は地域貢献を進めたい思いがありつつ、思うように進展していなかった。
そこで、地域としては液状化現象を学ぶ機会として、応用地質としては地域住民の防災に関する考え方を知るための機会として、地域防災訓練で協力しあうことになった。

新東三国地域活動協議会防災訓練	応用地質株式会社
【強み】地域での防災訓練の開催 多様な世代への参加の呼びかけ	【強み】地盤災害のプロフェッショナル
【課題】液状化災害が懸念されている地域	【課題】地域との関わり方がわからない、地域の状況を知りたい

地域の防災訓練で液状化実験のブース及びパネル出展

事例②運動会の運営を若者が支援

東三国地域は高齢化が進み、規模の大きなイベント準備に課題を抱えていた。
一方、新大阪歯科技工士専門学校では、学生のボランティア活動先を探していた。
地域には新たな担い手を受け入れる態勢があり、学校には７００人もの学生が在籍。
２日間にわたり同校の学生が、地域の運動会の運営をサポートしさわやかな汗をかいた。

東三国地域活動協議会　大運動会	新大阪歯科技工士専門学校
【強み】地活協内の連携、新たなる担い手や協働先の受け入れ態勢が整っている	【強み】若い世代の学生が約700人在籍している
【課題】地域活動の担い手の高齢化が進みつつあり、イベント規模が大きいので準備が大変	【課題】奨学金制度を利用している学生も多く、ボランティア活動がひとつの条件となっている。学校の近くで受け入れ先を探していた。

東三国大運動会で学生ボランティアが２日間にわたり活躍。

今後の課題

- 地活協の活動や運営のキーパーソンがまだまだ必要である。
- 地域活動の自主財源確保に向けて、CB/SB の具体的内容を提案する必要がある。
- インタビューや交流会事業を通じて、地活協や地域活動への理解が進んだが、多様な主体との協働活動の実現・地域コミュニティの再組織化に向けてこれからの取組みが重要である。

◎みなさんからのご意見・ご要望をお聞かせください！

淀川区まちづくりセンターでは、地活協へのアドバイスや企業・NPO・地域とのマッチングなど取り組みを進めていきます。「地域のためにこんな講習会を開いてほしい！」、「こんなことが地域でできたらおもしろいかも!?」ということはありませんか？
ご意見は、淀川区役所政策企画課（☎6308-9405　E-mail：tl0009@city.osaka.lg.jp）まで。